

安溪鉄観音と白御影の新石種！

JSC 貿易部ニュース 中国編

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしく願いいたします。

さて、今月は福建省産のお茶「鉄観音」についてのお話です。

昨年、弊社の中国の取引先と中国版ラインとも呼ばれる「ウィーチャット」で仕事の話をしていた時、ふと気づいたのですが、彼のアイコン写真が「猫」から「葉」の写真に変わっていました。



「アイコン変えました？きれいな緑ですね！」と聞くと「実家の茶畑の写真なんですよ〜」とのこと。

話を聞くと、彼の実家はお茶の栽培をしている茶農家らしく、場所は福建省泉州市安溪県とのこと。

安溪県は「鉄観音」の産地としてとても有名な場所です。

加えて言うなら、私たちにも馴染み深いピンクの銘石

「G635」の産地でもあります！

そんな安溪は「茶都」の別称もあるくらいで、「安溪産鉄観音茶」は、中国全土はもちろんのこと日本、そして世界各国へ出荷されています。

ところで、この「鉄観音」という名前の由来をご存知でしょうか？

物語風にお伝えしますと、

昔々、安溪にある茶農がいました。

信心深い茶農は、毎日お寺の観音様に一杯のお茶を献ずるのを日課にしていたのですが、ある夜、夢の中で観音様にお茶をお供えしようと歩いていると、岩の間に生える香りのよいお茶の木を見つけます。

翌朝、同じ場所を通りかかるとなんと夢と同じ木があるではありませんか。

早速、その木を持ち帰り育てると、その葉から採れた茶葉は鉄のようにずっしりと重く、香りもとてもよかったです。そして、そのお茶の木を栽培して売り出したところ売れに売れて大金持ちになりましたとき。

それ以降、お寺の観音様にちなんで、「鉄観音」になったとか、ならないとか。。。。。

諸説あるようですが楽しい一つの物語としてご覧くださいませ(^)

そして、続けて取引先のその彼が、実家の茶畑や風景の写真も送ってくれました。



なんとなく懐かしさもあるような、のどかな風景ですね。

海拔 1000m の自然豊かな場所だとか。空気もおいしいでしょうね。



ここの産地から卸業者に販売され、その後、それぞれのブランド名で小売店の店頭で並ぶ

そうです。

中国の工場を訪問された折に、「鉄観音」を飲まれた方もいらっしゃるかと思います。



私たちが約三年、中国へ行けておりませんので、工場で当たり前のように飲んでいたこのお茶も懐かしいです～！

皆様も次に中国を訪問される際には、茶畑の風景とお坊さんの話を思い出しながら安溪の「鉄観音」を味わってみてくださいませ～(^ ^)

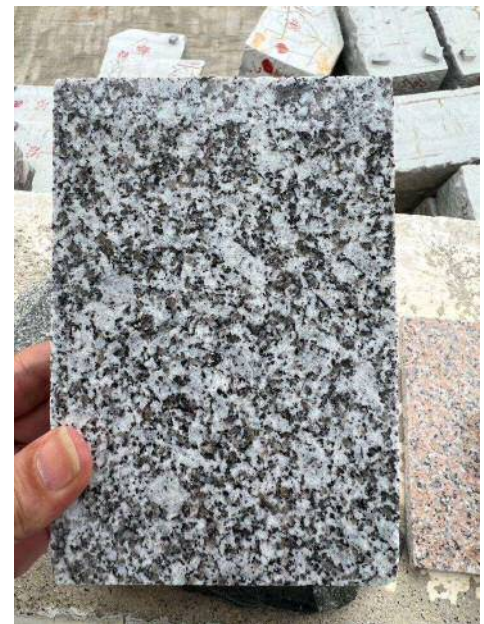
さて、今月の石のお話！

沿海部に位置する福建省では「G 6 2 3」「G 6 8 8」等の白系丁場がどんどん閉鎖され、絶対的な安心感のある代替石種もなかなか出てきていない状況ですが…

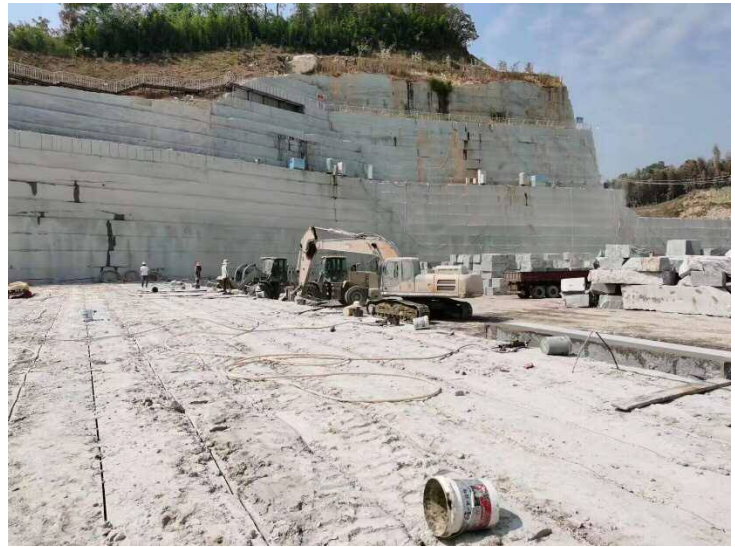
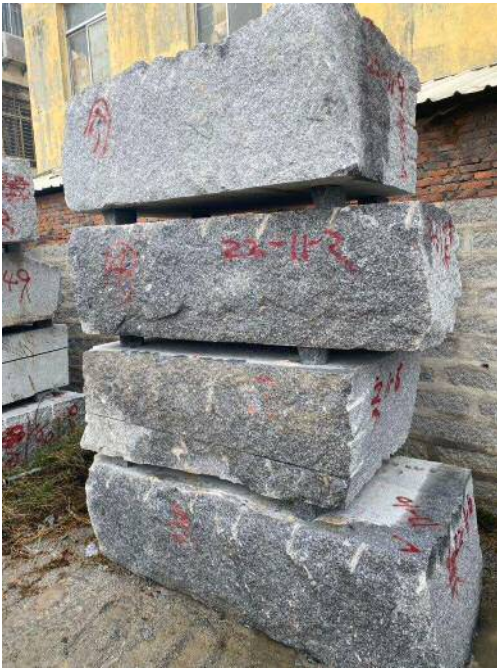
そんな中、内陸部の湖南省から新たな石の情報がありましたのでご紹介させていただきます。

名前は「J X 0 1」です。

小さい金属点が少しありますが、今のところ錆が出たり、黄色くなったりしているというようなことはないようです。



石目の柄が大きいので地域によって好みが分かれそうですが、原石を確認した当社の検品員の報告でも難点は少なく綺麗とのことでした。



長尺は最長 8 尺、4 x 8 尺の大判サイズも対応可能です。

石の価値を下げない為に、原石商社が販売先を絞り込んで限定販売しているようなので、どの工場でも入手できる石ではございません。

現時点では限られた 2 工場のみでの取り扱いです。

これまでも湖南省の地元では使われていましたが、日本の墓石向けとしては、出始めて間もない石です。

丁場は現在安定して採掘しております。

引き続き、生産した製品の状態も調査し、ご報告をしていきたいと思っております！

それでは今月も最後までお読み頂きありがとうございました。

本年もご高配賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2023 年 1 月 1 日